

# 2023年12月号 FP 武蔵野グループ



## パッシブかアクティブか

年が明けるといよいよ新NISAがスタートします。新NISAについては、マネー雑誌だけではなく、新聞やテレビのニュースなどでも取り上げられ、高い関心を持って受け止められていることが感じられます。今回のメルマガでは、この新NISAにおけるファンド\*選択のポイントとなるアクティブ運用とパッシブ運用について取り上げてみました。

※ファンド=投資信託とってください

### パッシブ運用とは

パッシブ運用は、ベンチマークとするインデックスの収益率に連動する収益率を目指す運用スタイルです（インデックス運用ともいいます）。パッシブ運用の投資信託には、日経平均株価や東証株価指数（TOPIX）に連動するもの、外国株ではダウ平均株価\*やS P 500に連動するものなどがあります。

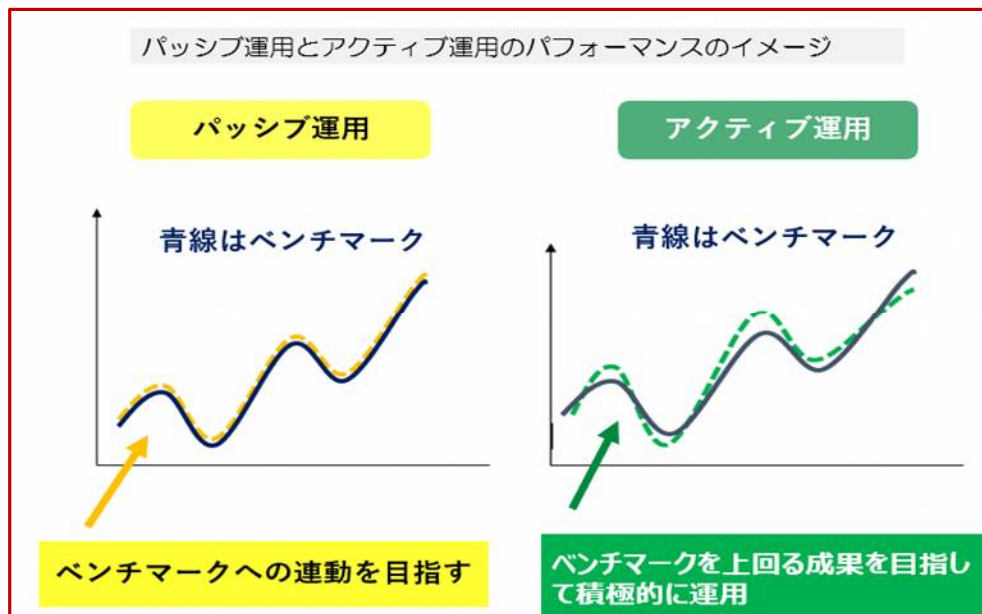
※ダウ平均株価に連動するファンドは、つみたてNISAではインデックスファンドではなくアクティブファンドに分類されています。30銘柄では分散が十分でない金融庁が判断したということでしょうか。

### アクティブ運用とは

アクティブ運用は、あらかじめ決められたベンチマークを上回るパフォーマンスを目指す運用スタイルです。

両者の特徴を以下のようにまとめてみました。

	パッシブ運用	アクティブ運用
運用の狙い	ベンチマークに連動する運用	ベンチマークを上回る運用
運用の評価	ベンチマークとの乖離が小さいほど優秀	安定的・中長期的にベンチマークを上回ること
運用コスト	アクティブ運用より低い	パッシブ運用より高い



違いや特徴は分かったけど、じゃあ、どちらを選べばいいの？という声が聞こえてきそうですね。私はどちらかというとなパッシブ派なのですが、その理由は以下の通りです。

- ① 実際にアクティブファンドの実績を見ても、長期的にベンチマークに勝ち続けるアクティブファンドは少ない。
- ② 勝ち組のアクティブファンドを見つけるのは素人では（プロでも）難しい。
- ③ インデックス運用より運用コストが高いので、10年、20年と長期運用ではコスト負担がパフォーマンスに与える影響が大きくなる。
- ④ リターンの追求はベンチマークで十分（市場の全体のパフォーマンスで満足）。
- ⑤ 代表的な株価指数についてはニュースで報道されるので、インデックスファンドなら自分の保有しているファンドのパフォーマンスがイメージできる。

では、パッシブファンドに問題はないのでしょうか？あまり問題点も見当たらないのですが、パッシブファンド（インデックスファンド）を選ぶ際は、以下の点に気をつけて選ぶとよいと思います。

- ① 参照とするベンチマークによって運用パフォーマンスが異なることがある。
  - 代表的な日本株の株価指数には、東証株価指数（TOPIX）と日経平均株価がありますが、両者のパフォーマンスは必ずしも同じにはなりません。
  - 同様に代表的なアメリカの株価指数であるS & P 500とナスダック総合などでもかなりパフォーマンスが異なります。

② 対象とするベンチマークの中身をよく見ておくこと

→ 例えば人気の世界株式ファンドではアメリカ株の組み入れ比率は約 6 割ですが、日本株はわずか 5%です。

新興国株式ファンドは幅広く新興国に投資していそうですが、中国、台湾、インド、韓国で約 7 割を占めています。

資産形成を目的とする投資のキーワードは、**長期・積立・分散**です。

- ・十分に分散された市場ポートフォリオを
- ・毎月コツコツ
- ・20~30年つみたて続けること。

さらに大事なことは途中で退場しないこと、日々の値動きを気にしないことです。

新 NISA のスタートを機に、投資の新たな一步を踏み出してみませんか。

F P 武蔵野グループ  
C F P<sup>®</sup>、CMA  
森内 茂樹